

令和4年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	22660001	トランスジェニック生物学特論	48	16	33.3	4.31	「授業の難易度は適切であったか」が、4.0ではあったものの、平均より評価点が低かった。	一層、丁寧な説明を心がける。	
2	22660002	植物生産科学特論	25	9	36	4.31	評価項目の集計値が、概ね学科群平均に近い数値となった。しかし、アンケートの回答率が著しく低く、授業に前向きな受講生のみが回答したと仮定すると、この評価が受講生の評価を的確に反映しているか否かについては疑問が残る。受講生の当該授業科目に対する学習意欲をもっと高める（アンケートへの積極的なレスポンスにも繋がるであろう）ため、担当教員に工夫が望まれる。	前述の評価項目のうち比較的评价が低い3つに着目し、授業の基本的形態が講義形式であっても少しでも「双方向性」を取り入れ、受講生の意欲や理解につながるような「わかりやすい論述・解説」を行うことにより、受講生が当該学術分野において「さらに深く学ぼうとする意欲」をもつよう努めたい。	
3	22660101	動物・水圏資源保全学	40	15	37.5	4.22	#N/A	#N/A	#N/A
4	22660102	生殖生物学特論	22	10	45.5	3.99	本講義は5人の教員によるオムニバス形式で行われる。講義時間が一人3回分しかないため、構造的に学習デザイン（学習目標）と学修マネジメント低くなったものと思われる。	担当教員全員で再度統一性のあるテーマで講義内容を再構築することを議論する。しかし、講義内容には哺乳類、鳥類および海洋生物が含まれているため難しい面もある。学生数が多いが、できるだけ学生との関係を強めるよう努める。	
5	22660109	水族生理学特論	19	9	47.4	4.28	共-60の双方向性は高いものの、共51,共53,共211,共68など、平均を下回っていたものもあった。	講義内容が専門的であり、分野が大きく異なる学生には、難しかったように感じる。できるだけわかりやすい解説を加えるなど、次回は工夫したい。	
6	22661002	森林資源管理学	11	6	54.5	4.30	学生と教員のやりとりには双方性があつたは高い評価を得たが、主体的学修と学修意欲については3.8と相対的に低かった。	担当教員が多い科目であるので、森林科学の基礎知識と総合的に学ぶ必要性について伝えること、また書籍や研究論文の紹介を適確に行うようにする。	
7	22661101	生産環境の科学	25	7	28	4.07	学習意欲と双方向性で評価が低かった。	オムニバス講義なので、分担教員と対策を検討する。	
8	22661102	生産環境データ解析論	25	6	24	3.82	データ解析に活用できるデータベースに関する講義内容を行った。プログラミングの要素も入っているため、「難易度の問題がある」との評価であった。一方、自らの講義でも講義の中でオンラインアンケートにより学生の理解度を調査していたが、その結果は概ね理解できているという回答が多かった。本アンケートと回答が一致しない点もあるため、回収率が低かったことも評価が偏った可能性がある。	大学院講義であるため、研究等への利用を考慮して、多少、講義の内容が詰込みすぎた感じは否めない。次年度に向けて、講義内容のブラッシュアップを行いたいと考えている。	学生係から送って頂いたアンケート調査のメールを見落としており、アンケートの回答を学生に口頭で依頼できなかった点も回収率がかなり低かった要因と思います。深くお詫び申し上げます。
9	22661103	熱と流れの科学	21	6	28.6	3.83	質問10項目のうち7項目で、「4：そう思う」と「5：強くそう思う」のポジティブ回答が8割を超えており、昨年度と同程度の評価を受けた。本科目がかなり専門性の高い数物系科目ということを踏まえて、動画配信によるオンデマンド型で講義を実施した。そのため、「学生と教員のやりとりには双方向性があつたか」の評価点が低い結果であったが、知識の修得・理解を第一義とする専門科目であれば、必ずしも双方向性が必要とはいえない。また、専門性が高い数物系科目であるため、学生の所属分野によっては必ずしも必須とはいえず、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」、「この授業内容についてより深く学びたいか」がやや低い評価を受けたが、自身の修士論文のテーマとの関連性だけで評価されるべき項目ではないと考える。	次年度以降も、双方向性のある授業を意識することなく、講義内容の説明動画の配信によるオンデマンド式を採用する。本講義の学習目標の達成の観点から、オンデマンド学習が最も有効と考える。また、主体的な学修意識や学習意欲の向上に繋がるようなコンテンツの提供を考えたい。	回収率があまりにも低すぎる。これは、講義担当者の対応のみでは回収率を挙げることはできず、部局での対応が必要と思われる。
10	22661301	木質の形成と利用	14	7	50	4.33	回答数7、回答率50%であり受講学生の意見は大凡反映されたいと考える。全ての質問項目で4、0以上、科目群平均ともほぼ変わらない値となっており、平均的な回答であった。	講義において双方向性を高める方法として、学生による発表の機会を増やす。	
11	22661302	サステナブル資源科学	16	7	43.8	4.32	本科目は英語で実施されており、国際コース（CODE 22665014）の学生からは高い評価を得ている。一方、日本人学生からは平均的な評価となった。E科目としては適切に実施されたと判断した。	どちらの受講者からも、授業の難易度についての評価にはばらつきがあった。幅広い分野の学生が受講することを意識し、より背景説明を丁寧に行うよう対応したい。	受講生が少ない場合でも、国際コースのアンケートが実施されるよう配慮してほしい。

令和4年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
12	22663001	生物機能分子化学Ⅰ	23	10	43.5	4.23	満足度4.4の評価であり、想定した講義が実施できたと考える。	昨年と同じ構成で進める。学生と教員のやりとりに関する評価が3.8と低評価だったため、双方向性に配慮する。	
13	22663002	生物機能分子化学Ⅱ	20	8	40	4.04	概ね高い満足度を得られたと思う。唯一、双方向性が低いとの評価が目立った点は次年度の検討課題としたい。	学生からの質問を、ムードルでより多く受け付けられるようにする。授業中になんらかのグループワークを導入することも検討する。	
14	22663101	システム生物工学特論	47	30	63.8	4.40	アンケートの集計によると（63.8%）「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」のそれぞれの問いに対して、どちらとも言えないと回答する学生が20～24%いたため、改良の余地があると考えられる。	さらなる学習目標の明確化、また学生の学問・研究への好奇心、関心につながる授業が行えるよう、次年度以降も学生の声に耳を傾けながら。工夫を凝らし授業を続けたい。	
15	22663102	バイオリソース特論	40	27	67.5	4.11	概ね関連科目の平均点に近い評価が得られた。昨年度は3点台の評価もあったので改善された。E科目であるために学生も不安があり、英語の説明につづけて日本語での解説を行なった。この点については講義後のアンケートでは好評である声が多かった。	国際コースの科目としても行なっているので、来日できていない学生のために今年度はオンライン講義で行なった。次年度も同様な状況である場合は、本年度と同じ形式で行う。	
16	22663103	システム生物化学特論	35	24	68.6	4.56	担当講義の平均のほとんどが科目群平均を上回っており、概ね満足度の高い授業を行えたものと考えられる。	より満足度の高い講義を行えるよう努力していきたい。	
17	22663104	環境微生物学特論	35	24	68.6	4.42	全ての項目の平均値が科目群平均以上の値であり、概ね問題は見当たらなかった。敢えて上げると回収率（68.6%）をもう少し向上すべきかと考える。	今年度から主担当となったため、昨年度との比較はできないが、概ね今年度と同様のやり方を踏襲したいと考えている。	
18	22663105	微生物生産工学特論	56	31	55.4	4.35	課題を課さなかったために「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」という項目が少し低くなったが、それ以外は特に大きな問題点もなかったと考えている。	4名の担当教員により、実施されたが、少しオムニバスの授業となってしまう、全体の目標が曖昧になってしまったと反省している。次年度以降、特に最初の授業で内容と目標を学生に説明したい。	
19	22663110	細胞機能工学特論	78	47	60.3	4.46	比較的高評価を得ている。その中でも、シラバスや講義の目標設定に関しては科目群平均レベルであった。	シラバスや講義の目標設定をより明確にすることを心がける。	
20	22663114	微生物遺伝子資源工学特論	10	6	60	4.57	授業の難易度の平均値が科目群平均値より0.1低い以外は、科目群平均値より高い値を示しており、回答した学生の評価は概ね好評であると考えられる。	昨年度の評価の低さを解析し、対応策を講じたため、一昨年度以前の評価に戻ったと考えている。このため、次年度も今年度と同様の対策を講じ、様子を見ることにしたい。	
21	22663301	食品機能学特論	47	20	42.6	4.57	概ね授業内容は理解されているものと考ええる。	Moodleでの学生との情報共有がうまく行っていなかった部分もあるので、そこを改善する。	
22	22663303	食品品質学特論	28	14	50	4.45	本講義は、日本人大学院修士家庭学生と国際コース留学生修士課程学生を対象とした完全に英語による講義である。オムニバス形式で開催しており毎回英語のPowerPoint資料をもとに英語で解説を行っている。授業の最後には講義に対する質問を英語で書かせて、次回、英語で回答する形式により、問題意識の共有化と学生との双方向性を確保している。全体的な評価としては、すべての項目で講義科目群の平均以下はなく、学修目標の明確さ、双方向性、教員の準備は科目群平均以上であった。日本人及び留学生ともに、学生は本講義の内容に対しては特に大きな不満はなかったものと思われる。	さらに講義の内容を精査して、理解度を含めるための改善を進める。質問に対する回答は、学生自らが持っていない視点での問題点の確認と理解のためには非常に有効であるので継続して行う。	
23	22663306	機能構造解析学特論	15	5	33.3	4.58	概ね授業については理解が得られているものと判断できる。	特になし。	
24	22665013	生産環境の科学(国際コース)	11	8	72.7	4.23	おおむね好評の評価であった。	特段無し。	
25	22665017	バイオリソース特論(国際コース)	10	4	40	4.50	平均点とほぼ同じかそれを上回る評価であった。講義に対して興味を持ってくれた評価は高く、満足がいく内容であった。	本年度に準じて行う。	

令和4年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
26	22665018	食品品質学特論(国際コース)	11	9	81.8	4.76	本講義は、日本人大学院修士家庭学生と国際コース留学生修士課程学生を対象とした完全に英語による講義である。オムニバス形式で開催しており毎回英語のPowerPoint資料をもとに英語で解説を行っている。授業の最後には小テストを行って、講義内容の振り返りを行わせ、講義に対する質問を英語で書かせて、次回、英語で回答する形式により、問題意識の共有化と学生との双方向性を確保している。全体的な評価としては、すべての項目で講義科目群の平均以上で、4.7から4.9と高かった。日本人学生による評価を留学生による評価の方が大きく上回っていることから、留学生は本講義の内容に対しては満足していると思われる。	さらに講義の内容を精査して、理解度を含めるための改善を進める。質問に対する回答は、学生自らが持っていない視点での問題点の確認と理解のためには非常に有効であるので継続して行う。自由記述にも意見があったので、講義資料は留学生が将来も使えるようにダウンロード可能にする予定である。	
27	22661109	農業情報学特論	19	1	5.3	1.00	アンケートの回収数が1名であった。講義が一方的であり、講義の難易度が不適切であったとの指摘を受けた。学部の講義を前提にしたものであったため、教え方丁寧さを欠いていたと分析する。	講義が一方的にならないように理解度を確認しながら進める。講義の難易度については、学生視点から再検討する。また、自身のモチベーションが不足していた気がするので、しっかり準備して丁寧な講義をするように心がける。	
28	22661307	生物材料設計学	14	3	21.4	4.85	#N/A	#N/A	#N/A

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。

令和4年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	22660003	総合的病害虫管理学	25	7	28	4.27	本科目は複数の教員によるオムニバス形式で実施している。 アンケート回答率は28%と、授業内で周知・依頼しているにもかかわらず、全体平均よりかなり低いものとなった。 上述の回答率（7名からの回答）での授業評価分析には難しいものがあるが、質問10項目のうち6項目で科目群平均より高い値を示し、昨年度よりも良い評価を得ることができた。一方、授業の双方向性については、科目群平均よりも低い値となった。	まずはアンケート回答率を上げるよう努める。 総合的に満足度は得られているものと判断されたことから、双方向性に留意しながら講義内容を適宜ブラッシュアップして、引き続き充実した授業を提供していきたい。	
2	22660004	農業生物学特論	34	12	35.3	4.35	回収率はおおよそ三分の一を上回る程度と低かった。全10項目中、科目群平均より高い項目が5項目、平均が2項目、平均より0.1ポイント低いものが3項目であった。全体的に評価は良好であると判断するが、改善すべき項目もあるため、次年度以降に対応したい。	平均より0.1ポイント低い3項目（難易度、学習意欲、満足度）について、平均以上となるように講義内容を再検討したい。	
3	22660007	植物生産生理学特論	11	6	54.5	4.22	双方向性の値が低い。学生本人の自主学習を問うものがやや低い。それ以外は平均並み。回答者が6人だが、統計的に有意なのか。	大学院の講義で教員との双方向性はどれほど重要なのか。毎時間、講義の終わりに間を出し、質問を書くように促したが、双方向性が低いと評価されている。また学生本人の自主学習はしていないと回答されているので学生に問題があると思われる。しかし、これらが改善されるように工夫する。	これがどのくらいの意味があるのか毎回疑問に思う。書類作業ばかりが増えている。講義を準備する時間が削られる。
4	22660008	ゲノムサイエンスとエビジェネティクス	30	10	33.3	3.93	全ての回答に最低点をつけていると思われる学生が1名おり、回答者の母数が少ないため、平均点がそちらの影響を大きく受けているように感じた。全ての項目で、「どちらかと言えばそう思わない」と回答した学生数が0で、次の「どちらとも言えない」と回答した学生数が最も多かった項目（2名）は、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」であった。	授業内容をもっと身近に感じられるような事例を積極的に取り入れて自分で学習する意欲を掻き立てる必要がある。	
5	22660011	昆虫病理学特論	16	5	31.3	4.12	アンケート回答率は31.3%と、全体平均よりかなり低いものとなった。 質問10項目のうち、授業の難易度については科目群平均より上回る結果となり、また総合的な満足度は科目群平均と同値を示した。しかしながら、昨年度に引き続き、英文専門書の読解とレポート作成・提出としたため、学修デザイン、マネジメント、インストラクションの項目でよい評価は得られなかった。 いずれにしても、上述の低いアンケート回答率（5名の回答）からの分析は極めて困難であった。	アンケート回答率を上げるよう努める。 また、授業内容や構成等を抜本的に見直して、全般的な授業評価の向上を目指したい。	
6	22660016	植物環境調節学特論	17	6	35.3	4.05	10の評価項目のほとんどで、（必ずしも評価は低くないものの）集計値が学科群平均をわずかに下回った。とくに、教員の論述のわかりやすさ、受講生との双方向性については厳しい評価となっている。受講生の当該授業科目に対する期待値（学習意欲）は比較的高いので、受講生の満足度を上げる措置が望まれる。	授業の基本的形態は講義形式であるが、少しでも双方向性、受講生の意欲や理解につながるような論述・解説を目指した改善を行う。取り扱う学術的内容については従来のおりとする。	
7	22660103	動物・水産先端科学論	10	2	20	4.45	#N/A	#N/A	#N/A
8	22660105	動物形態形成学特論	16	3	18.8	4.33	今回のアンケートでは、受講生に対し事前に回答依頼を行っていたものの、授業登録者16名のうち回答があったのは3名のみであった。 回答結果は、授業マネジメントを除くほとんどの項目で科目群平均と同等若しくはそれを上回っていたことから、学生に対しある程度満足できる授業を行えたものと考え。	次年度においても今回と同様の授業を行う予定であるが、内容については少しずつ情報をアップデートすることで、この分野における最新の情報を提供したい。	
9	22660106	動物生殖生理学特論	25	5	20	4.32	本講義は2名の教員で哺乳類と鳥類の講義をそれぞれ行っている。全ての項目でほぼ平均点であったが、学習デザイン（学習目標）が低い値であった。	学生の意見をより正確に把握するには、できるだけ多くの学生のアンケート結果を知るべきである。回収率が平均よりもかなり低いので、最終授業でアンケートの時間を取ることで回収率の改善を行う。	

令和4年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
10	22660111	水圏生物資源環境学特論	20	3	15	4.06	受講者数20名に対し、アンケート回収数が3件であった。回収率が極めて低く、評価を分析するのは難しいが、あえてこの結果で評価するのであれば、大抵は「どちらかと言えばそう思う」と回答されており、相応の評価は得られているものと判断したい。	まずは、アンケート回収率の向上に努めたい。また、今回、6名の教員（オムニバス形式）で行ったが、教員1名が退職し、5名となるため、これを機に講義編成等を含め、リニューアルしたい。	
11	22661006	山地防災学特論	11	5	45.5	4.15	総合的な満足度は4.4と全体の平均と同様であった。全体平均と比較して、特に低い項目は共-211の授業難易度および共-60の双方向性、共-81の熱意、共-3の主体的学習の4項目であった。これは対面講義が初回および最終回の2回であり、その間はオンデマンドで講義を実施してことによるものであることを反映しているものと分析される。	総合的な満足度を高めるために、全体平均より特に低い共-60、81、3の項目について改善を図る予定である。具体的には、対面形式の講義回数の増加もしくは双方向性を意識した講義様式を取り入れる方向で対応する予定である。	
12	22661007	林業経済学特論	10	3	30	4.17	学生と教員の双方向性と準備については評価が高かったが、特に「関係することを自分で学習した」が2.7と低かったので、改善すべきである。	本年度までゼミ形式で初回と最終回を除いて、オンラインで実施したが、来年度から対面として議論しながら学びを深める工夫をする。アンケートの回収率が低かったので、入力促進のタイミングを変更する。	
13	22661107	土壌学特論	10	3	30	4.64	学生からの評価は高かったと思われる。とくに、シラバスの学習目標の明確性、教員の準備・熱意、総合的な満足度の評価が高かった。ただし、アンケートの回答は受講者10人中3名からしか得られておらず、この点は改善する必要がある。	一部のコンテンツを入れ替え、より学生に興味を持ってもらえる内容に改善していきたい。	アンケートの回収率を高めるような工夫が、組織として必要だと思います。
14	22661111	ポストハーベスト工学特論	18	5	27.8	4.22	全体的に平均的な評価であった。学修デザインは問題なかったが、課題の採点のフィードバックが遅れ、双方向性の評価が平均以下であった。	双方向性の評価について、フィードバックを心がけることで改善していきたい。	
15	22661305	森林バイオマス科学	10	5	50	4.48	オムニバス形式の講義であったが全体的に評価は高く、大きな問題なく実施されたと判断される。登録受講者も10名と少なく、恵まれた環境で授業が実施できた。	今後も、よい評価を維持していけるよう、内容を改善していく。	
16	22663005	海洋生命化学特論	26	8	30.8	4.56	概ね平均的な評価を受けた	これまで通りに実施予定	当初の担当が病気で長期療養に入ったため担当を変更し、また副担当として当初の担当と同じ研究室に所属する助教が授業に参画して実施した。
17	22663115	発酵化学特論	43	14	32.6	4.32	修士1年生秋学期の授業であることを念頭に、微生物産業関連の企業などについての研究内容について説明を行った。全体的にはオムニバス形式の内容が多く、全体としてのまとまりに欠けたことは反省している。	次回はもう少し学ぶべきポイントについて最初に丁寧に説明を行いたい。	
18	22663302	食品加工学特論	34	21	61.8	4.58	学修マネジメント（双方向性）ならびに主体的学修のポイントが若干低かったことから、学生により自分で考えるように講義中の発言回数を増やしていく必要性について感じている。	主体的学修意欲を高めて双方向性を維持できるように準備したい。	
19	22665001	基礎統計学	20	20	100	4.28	For all questions, the average answer scores are greater than 4.0. The average score is 4.28. For 共-67 and 共-221, one answer is Disagree and one is Strongly Disagree. In the comment box, one student said that the explanation is not really clear and he/she is struggling in doing in-class exercises and homework. Other two students said they are glad to study the course.	improve instruction so that all students can understand easily.	

令和4年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
20	22665006	農学生命科学	18	18	100	4.08	回収率は100%で良好であったが、科目群平均を超える項目がなかったことは留意すべき点である。	本講義の受講生のうち、約半数が生命科学の受講歴がないため、対象を絞った講義ができず、特にバイオインフォマティクスの演習では慣れない用語と慣れない作業があるため、苦勞したと考えられる。生命科学履修歴のない学生については受講制限をかけるべきであるか検討すべきと考えている。	
21	22665007	フードサイエンス・システム論	15	14	93.3	4.44	本講義は、教員7名によるオムニバス形式の講義である。受講学生のうち食品を学部で学んだことのある学生は数名しかおらず、満足度は科目群平均と同じであったが、基礎とは言え、大学院の講義内容であるため生化学、化学の基礎知識も乏しい専門外の学生には理解が難しかったと思われる。	受講学生の専門性（専門外の学生が多い）を考慮してさらに講義内容の精査を行い、平易な内容で講義を行う必要があると思われる。今年は未入国の学生の受講を配慮してZoomを併用して対面で講義を行った。今後も、未入国、軽症のコロナ感染学生等に対しても、Zoom併用により受講可能なように対応する計画である。	
22	22665010	農業生物学特論(国際コース)	21	18	85.7	4.26	アンケートの回収率は8割を超えており、最終講義での願いの効果があったと思われる。全10項目はおおよそ科目群の平均に収まっていた（平均±0.1の範囲）が、授業の難易度が平均より0.2ポイント低く、改善の余地があると判断された。	全体的な評価は平均的であった。もう少し平均を上回る項目を増やしたい。また難易度についてすこし再考し	
23	22665011	動物・水産先端科学論(国際コース)	13	11	84.6	4.37	#N/A	#N/A	#N/A
24	22669904	食品免疫機能分析学特論	21	17	81	4.53	今年度の食品免疫機能分析学特論では、多糖類や乳酸菌などの食品成分において明らかにされている免疫調節作用を中心に、食品の機能性と品質管理のための分析法や制度について講義を行った。学生の授業評価は総じて平均を上回っており、講義内容や資料等について、概ね支持が得られたと考える。授業出席や受講態度は概ね良好であったが、学生自らが主体性を持って学習に臨めるよう意欲を高める方策を講じる必要がある。	次期も同様の講義形式による授業を行うが、内容の見直しと改善を図り、学生の学習意欲と理解の向上に努める。また、学生に身近なテーマを盛り込み、質問の投げ掛けなど双方向性を引き出す取り組みをしたい。また、講義内容の幅を拡げるため、昨年度の実施例にならって異分野の講師による講義枠を設けていきたい。	
25	22661303	木質理学特論	13	5	38.5	4.44	演習形式の少人数講義であり、双方向性も含めて学生からの評価は高かった。	今後も同様の形式での講義を予定している。	
26	22661304	木質材料工学特論	12	3	25	4.86	おしなべて高評価を得た。アンケート数が30パーセントくらいなので、そのまま結果は信用できない。	自分をさらけ出す授業で、気に入った学生には良いと思うので、この形式も有るかと思います。	
27	22663106	遺伝子情報制御学特論	16	6	37.5	4.66	評価は、概ね、全ての項目で平均を上回っていた。	さらに、理解が深まるよう工夫を加えた講義を開講する	
28	22663305	食品栄養学特論	18	4	22.2	4.91	回収率が低いのであまり当てにならないデータである。	授業中に満足度調査のことを言っても回答してくれないので、回収率の上げる方法は別途考えます。	
29	22663307	食品工学特論	19	5	26.3	3.91	回収率が低く、あまり参考にならないが、好評価とは言えない結果だった。講義内容の説明に関する評価が比較的低かった。	今回は講義内容に関する説明に力を入れて講義を進める。	
30	22665003	生物資源論	20	17	85	4.54	アンケートの回収率は高く、85%だった。講義への評価も高く、全10の評価項目中、8項目で平均を上回っていた。とくに学修デザイン53、学修マネジメント、そして主体的学修の項目は平均を0.3ポイント上回り、高い評価となっていた。	去年に続き、平均以上の高い評価となっており、今後も評価される講義を続けたい。対面式で行ったが、一部の学生に対応するためオンライン形式も部分的に採用したが、アクセスがうまく行かなかった学生がいるようである。同時並行式についても少し工夫があるかもしれない	
31	22665004	地水環境論	15	12	80	4.65	評価は良かったが、難解との評価もあった。	分担教員と相談し、改善を図る。	

*色がついた授業は平均値が4.5以上です。